

たといつてよい。英仏間の抗争、イン  
ディアンとの争い、米軍の侵攻、大火、  
伝染病といういくつもの試練をへながら、  
当初は西方探検の根拠地として、のちに  
は毛皮交易の中心地、そして穀物、鉱物、  
工業品の大貿易港として栄えてきた。二  
〇世紀の初めには、モンクトリオールの人  
口はすでに五十万に達し、港では年間千  
隻近くの船が二百数十万トンの貨物をさ  
ばいていた。鉄道

も四方八方に急速  
に伸び、モンクト  
リオールはケベック  
市、米国メーン州  
ポートランド、ニ  
ューヨーク、トロ  
ント、そしてつい  
にはバンクーバー  
と結ばれた。こう  
した発展が基盤と  
なって、モンクト  
リオールはさらに金  
融および産業を発  
達させた。そして  
モンクトリオールが  
成長するにつれて、  
周辺の地域が必要  
な技能労働者を供  
給した。

▼オリンピック開催を待つモンクトリオール。マウント・ロイヤルからセント・ローレンス川を眺む。



過半数を制するようになる。現在の人口  
比率は、フランス系住民二に対し英国系  
およびその他の移住者一の割合となつて  
おり、フランス語の都市としてはパリに  
次いで世界で二番目に大きい。モンクト  
リオールは、フランス料理の中心地であり、  
同時に国際色豊かなショッピングと芸術  
と文化の町としても名高い。

一九六七年、ここで万国博覧会が開催  
され、国際都市  
モンクトリオール  
の名を一層高め  
たことは、まだ  
記憶に新しい。  
**商業の中心**  
地 モンクトリオ  
ールは海洋から  
千五百キロも奥  
に位置しながら、  
世界最大の内陸  
港に恵まされて  
いる。このため、  
石油化学、電子  
機器、航空機、  
鉄道、雑貨、織  
維、製紙などを  
始めとする諸産  
業が大きく伸び  
ることになった。

モンクトリオールはまたカナダ国営鉄道  
とカナダ・パシフィック鉄道の本拠地で、  
四方八方にのびる鉄道網がモンクトリオ  
ールを北米大陸の主要都市と結ぶ。さらに  
国際民間航空機および国際航空運送協  
会の事務局の所在地として、世界的な航  
空センターともなっている。昨年はモン  
クトリオール郊外にミラベル大空港がオー  
ブンした。

**文化の町** モンクトリオールは芸術や科  
学の育成発展に熱心なことで知られ、ま  
た二つのフランス語系大学、二つの英語  
系大学の所在地でもある。医学、科学研  
究、演奏および演劇活動の分野でも、  
モンクトリオールは世界的名声を博してい  
る。特にモンクトリオール交響楽団の本拠  
地、世界一  
流のコンサートや劇などの上演で有名。  
その他、プラネタリウムあり、水族館あ  
り、大植物園や現代美術館ありで、まさ  
に文化都市の名にふさわしい。さらに、  
万博会場の跡地では、毎年「人類とその  
世界」と称する文化的催しが行なわれる。  
**観光の町** モンクトリオールは、フラン  
スやイギリスを始め、世界各国からやっ  
てきた人びとが作った、国際色豊かな都  
市だ。それぞれの人びとが、新しい環境  
にとけ込みながら、一方では自分たちの  
伝統や文化を大切に守ってきた。そこか  
ら宗教や言葉、あるいは服装や生活方法  
まできわめてバラエティに豊み、誰にも  
親しみやすい国際都市が生まれたわけだ  
ある。

▲旧モンクトリオールの裁判所



モンクトリオールの歴史は、人口構成の  
点でも特殊だ。一七〇六年にはフランス  
系が過半数を占めていたが、その後英国  
からの移民が急増し、一八三〇年の英国  
系・フランス系の人口はほとんど同数に  
なった。ついでアイルランドからの大量  
移住で英語を話す市民の方が多くなった。  
しかし間もなくフランス系住民も増え、

モンクトリオールの大きな特徴のひとつ  
は、レストランが多く、料理がうまいと  
いうことである。六千を越えるレストラ  
ンが、世界約三十カ国の味を腕によりを  
かけて供する。ワインもそれぞれのレス  
トランが特に選んで取りよせたものだ。

ホテルも特に万博を契機に多数新築さ  
れ、またオリンピック大会を控えてその  
数や種類はさらに大幅にふえた。市当局  
では世界中からやってくるオリンピック  
見学者を、客のふところ具合いや好みに  
応じて、すべて収容できるといふ。

モンクトリオールは世界で唯一の、四次  
元都市と呼ばれているように、地下に  
まで街が広がっている。地上の交通混雑  
や雪の日の困難をよそに、地下ではメト  
ロ（地下鉄）が縦横にのび、デイスコテ  
ックなどのショッピング街が広く深く展  
開する。地下街は主なデパートやホテル、  
レストラン、劇場などへ通じていて、地  
上にできることなしに何でも用が足せる。

地上は新旧の建築物が対照の妙をなす。  
ラス・ビル・マリーの十字架形高層ビ  
ル、世界第二の大商業ビルとして名高い  
ラス・ボナベンチャー、芸術センター  
のラス・デザーツ、コンプレ・デジャ  
ルデザインなどが建並ぶ近代的な中心街  
から一歩入ると、そこはもう過去の世界  
だ。ラス・ダム、ノートル・ダム教  
会（七千人収容）、旧裁判所（現在はオ  
リンピック組織委員会の事務局が所在）、  
ジャック・カルチエー広場、ボンスク  
ール市場などの名所旧跡が、旧モンクト  
リオールとして昔の植民時代の名残りを  
とどめる。そのほかにも、カナダで最大  
のプラネタリウム、聖ジョセフ礼拝堂、  
セント・ヘレン島の水族館や軍事博物館  
など、名所には事欠かないが、モンクト  
リオールの名が由来したマウント・ロイヤ  
ルだけは忘れてはならない。そこからの  
眺望は、夜昼を問わず、天下一品だ。